

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員 (4期連続トップ当選)

〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
☎ 042-795-7361 (FAX: 必
要に応じて186を頭に加える)
議会 042-724-2171
yoshidaben@gmail.com



市長の不在と施政方針の代読

「石阪市長は病気療養のために、1月12日から2月28日まで榎本悦次副市長が市長の職務を代理します」と町田市が発表しています。1月初旬に内示がありましたが、直接聞いたものでなく、1月8日の出初式で見たのが最後でした。



その後を含めて、市長の病気の種類は一切発表されておらず、町田市の幹部とは面談が取れているようですが、見事にかん口令が敷かれています。また、実際の施政執行に滞りが出ているとは思えず、ある意味官僚組織の一体性は見事です。ただし、副市長は住民から選ばれたわけではなく、施政方針を職務代理者が議会発言することに違和感があります。

そのため、今度の定例会の一般質問では、「市長のやる気について」(1)市長は元気なのか、(2)会合の出席や広報の出番について(3)議会の発言についてを尋ねることにしました。質問日程は3月14日の予定。

まちづくり若者サミットに参加して

若者が就業して経済的な自立を図る取り組みが重要と考えてきました。一方でそのことは、若者の社会参加も期待するものですが、今回、関係者の誘いを受け、「全国まちづくり若者サミット2023」に出席しました。参加者の世代が20-30歳代で、10歳代の参加者(高校生)も大勢見かけました。リアル・オンライン報告の内容では、中学生が参加する例もありました。



「若者が育つ地域とは」というトークセッションでは、各地で「若者会議」等という名称で、未来のまちづくりや、SDGs(持続可能な開発目標)を掲げた、15-30歳の取り組みが報告されました。環境保護活動、地域の祭りの運営、若者のネットワーク作りなどの紹介が続き、その対称比較が論じられました。この若者世代の取り組みの特徴では、行政がやると財政の支出に過ぎないものが、彼らが実施した場合は、収入を生み出す収益事業として進められるケースがあることでした。まだまだ、「若者会議」の組織グループ数や参加人数は少ないのですが、来年にはもっと増えることでしょう。

◎町田市で、水耕栽培メロンの世界一決定戦を開催しよう!

○支持政党なしの方々の代表=吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

●吉田つとむは令和4年2月実施の市議会議員選挙で、4期連続のトップ当選を果たしています

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(4期連続トップ当選)

吉田つとむ



ブログ 個人HP



メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、
春季の第51期生を募集開始

山間の神山サテライトオフィス

無所属会派の視察で、徳島県神山町のサテライトオフィスを現地学びました。ここは鉄道も通らない山間にありながら、多数の企業がサテライト企業を進出させてきた自治体です。自治体が促進したのは情報通信の高度化した環境のみですが、コロナ以前より、オンラインで東京都心と2極化を図る企業が人気を呼び、今では神山町に移住する人口が移転する人を上回る勢いで、若い人が集まっています。



それを仕掛けた人は、NPO 法人グリーンバレーのリーダー大南信也氏(前理事長)ですが、それに呼応した一人が隅田徹氏と言い、自身が東京都心のタワーマンションから神山町に移住し、企業の拠点も並行して神山町にも展開していました。元来、映像配信、サービス開発の企業を経営し、神山では古民家を改造した「えんがわオフィス」をオンライン事業所として作り、さらに宿泊施設にも手を広げ、今では全国化するペースで事業展開を図っておられました。企業の旧来における地方進出は、安価な労働力を求めたものが大半でしたが、隅田徹氏の場合は、中央と地方の経済格差の解消も自ら意図したものでした。(続く)

世界初のDMVを会派視察・乗車

無所属会派全員で徳島県海陽町を訪れ、DMV(デュアル・モード・ビークル)を視察、乗車体験しました。バスと鉄道を一つの乗り物で乗り継ぐ交通手段で、世界で初めて実用運転するものです。2021年12月25日に阿佐海岸鉄道(阿佐東線)に有料営業運転がされていますが、初めて訪れました。過疎化対策でもありますが、JRが運行を廃止した後のレールを利用し、連続した区間のバス運行と同じ車体を使って運行する新しい乗り物です。延長は鉄道区間約10km、バス区間約5km 合計15km(室戸方面には週末各1本往復:プラスバス区間38km)となっています。

路線の途中で走行モード変更を行う場所が2か所ありますが、わずか15秒でタイヤ⇄鉄輪の変換が終了し、運転士が車両の周りを自分で一巡でするのみで確認できるのが特徴です。その駅で乗り降りする乗客を除いて、乗客はそのまま元の客席に座った状態を保ちます。そのため、モード変更の視察は、翌日の朝に実施しました。前日の運転士さんが親切に説明されました。なお、このDMVを運転するには、大型二種免許と鉄道運転免許の双方が必要だとも聞きました。全国に情報発信が進み、鉄道マニアや親子連れの訪問者が増加することでしょう。



◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2022年10月末までに104名が参加しました。

◎インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。